

平成25年4月23日(火)

国土交通省 関東地方整備局

利根川ダム統合管理事務所

記者発表資料

利根川上流の6ダムがほぼ満水となりました

首都圏の1都5県(東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、群馬県、栃木県)の水源となっている利根川上流8ダムのうち、6ダム(矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、相俣ダム、そのはら 菌原ダム、くさき 草木ダム)が、4月23日0時にほぼ満水となりました。

この結果、上記の6ダムに、しもくぼ 下久保ダム、わたらせ 渡良瀬貯水池を含めた、利根川上流8ダムの合計貯水量は3億9,537万m³となりました。

昨年は夏の少雨による影響で、利根川上流8ダムの貯水量が低下し、利根川本川で11年ぶりとなる、10%の取水制限が実施されましたが、解除後は利根川沿川の必要水量を確保しながらダム上流域の融雪水等を貯留した結果、本日ほぼ満水となりました。

なお、今年は気温の高い日が続いたことや4月上旬の降雨によって、平年よりも早く融雪が進んだため、昨年の5月11日より早く満水となりました。

今後、利根川沿川は、農業用水を始めとする水需要が増大していく時期となります。

当事務所では、引き続き関係機関と連携しつつ、きめ細かいダム運用に努めてまいります。今後の降雨状況によっては、貯水量が減少する可能性もあることから、引き続き節水にご理解、ご協力をお願いします。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ

神奈川建設記者会

刀水クラブ・テレビ記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 利根川ダム統合管理事務所

副所長(技術)

はやし あきひこ
林 昭彦

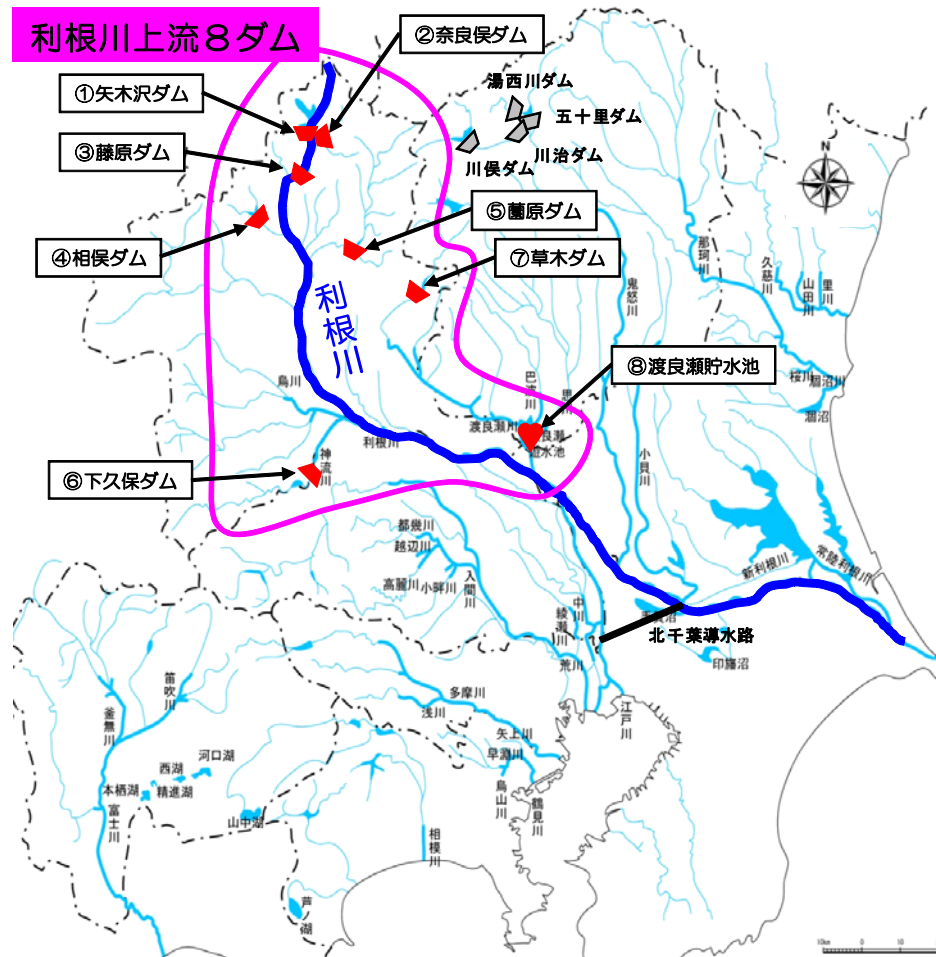
広域水管理課長

すだ けんいち
須田 健一

電話 027-251-2021(代表)

利根川上流8ダムの貯水量(平成25年4月23日0時現在)

ダム名	有効貯水容量	貯水量	貯水率
①矢木沢ダム	1億1,550万 ^m ³	1億1,441万 ^m ³	99%
②奈良俣ダム	8,500万 ^m ³	8,433万 ^m ³	99%
③藤原ダム	3,101万 ^m ³	2,988万 ^m ³	96%
④相俣ダム	2,000万 ^m ³	1,963万 ^m ³	98%
⑤藪原ダム	1,322万 ^m ³	1,255万 ^m ³	95%
⑥下久保ダム	1億2,000万 ^m ³	6,913万 ^m ³	58%
⑦草木ダム	5,050万 ^m ³	4,949万 ^m ³	98%
⑧渡良瀬貯水池	2,640万 ^m ³	1,595万 ^m ³	60%
8ダム計	4億6,163万 ^m ³	3億9,537万 ^m ³	86%



利根川上流8ダム位置図

利根川ダム統合管理事務所では、利根川上流ダム群の状況等について情報提供サービスを行っています。ご利用下さい。

○インターネットホームページ <http://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/>
ダム情報、ダムLIVE情報、降水量・水位LIVE情報、雨量・流量・積雪情報

【参考資料:解説】

1. 利根川上流8ダムの貯水状況

平成24年は春先の融雪を貯留し、5月11日に利根川上流ダムはほぼ満水となりました。その後、洪水期を迎えるため夏期制限への水位低下、7月1日より洪水期の貯水池運用へ移行し、順調に推移していました。

ところが、7月下旬から少雨傾向となり、8月から9月中旬までの降水量が、平年値を大幅に下回ったことから、利根川上流8ダムからの補給量が日々増加し、9月11日から10月3日までの23日間、利根川本川において、平成13年以来、11年ぶりとなる10%の取水制限を実施しました。

現在、利根川上流8ダムでは、利根川沿川の必要水量を確保しながらダム上流域の融雪水等を貯留した結果、貯水量3億9,537万 m^3 まで回復しました。

今年は利根川上流8ダムのうち、6ダムが平年より早い満水となりましたが、これからは水需要の多い時期となり、今後の降水量によっては、ダムの貯水量が減少していく可能性もあります。

当事務所では、利根川上流8ダムの効果を最大限に発揮するよう、一元的にコントロールする「統合管理」を行っており、引き続き関係機関と連携し、きめ細かいダム運用を行って参ります。

なお、神流川の下久保ダムでは、流域に降雪がほとんどなく昨年の秋から今年の春までの降水量が平年に比べ少なかったことから、現在の貯水量は6,913万 m^3 (貯水率:58%)にとどまっています。

渡良瀬貯水池については、冬期における貯水池干し上げ後の貯水に努めており、現在の貯水量は1,595万 m^3 (貯水率:60%)まで回復しています。

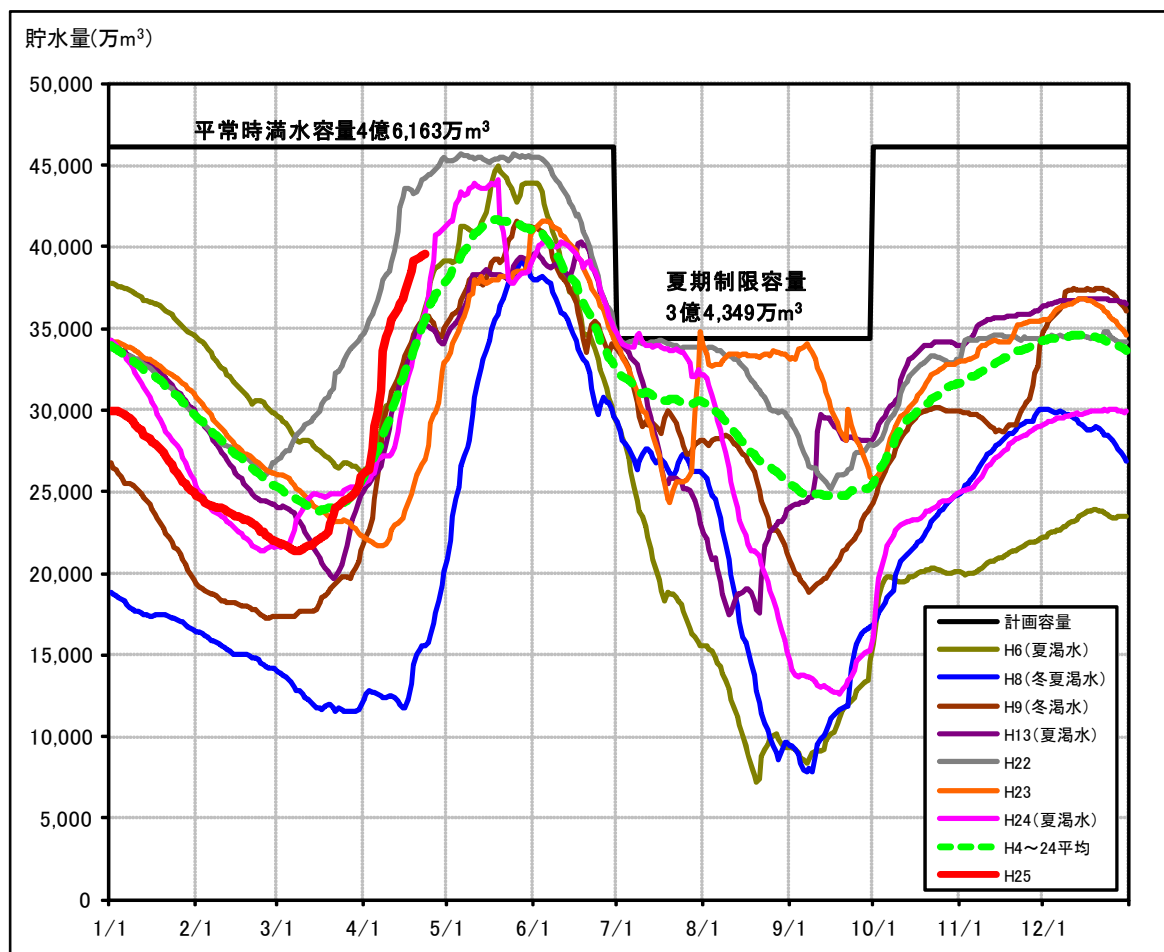


図-1 利根川上流8ダム貯水量図

2. 利根川上流域の降水状況

平成24年の利根川栗橋上流域の降水量は、3月、5月を除き、7月まではほぼ平年並みまたは平年を上回る降水量となっていました。8月は(87mm、平年の42%)平年を大きく下回り、9月も18日までは(77mm、9月1ヶ月間の平年値に対し36%)少ない状況となりました。特に、8月は昭和23年から平成24年の65年間で4番目に少ない月となりました。

平成25年に入り、1月、2月はほぼ平年並み、3月は平年を下回る降水量(20mm、平年の30%)となっています。

4月の月降水量は、22日までで122mmとなっています。

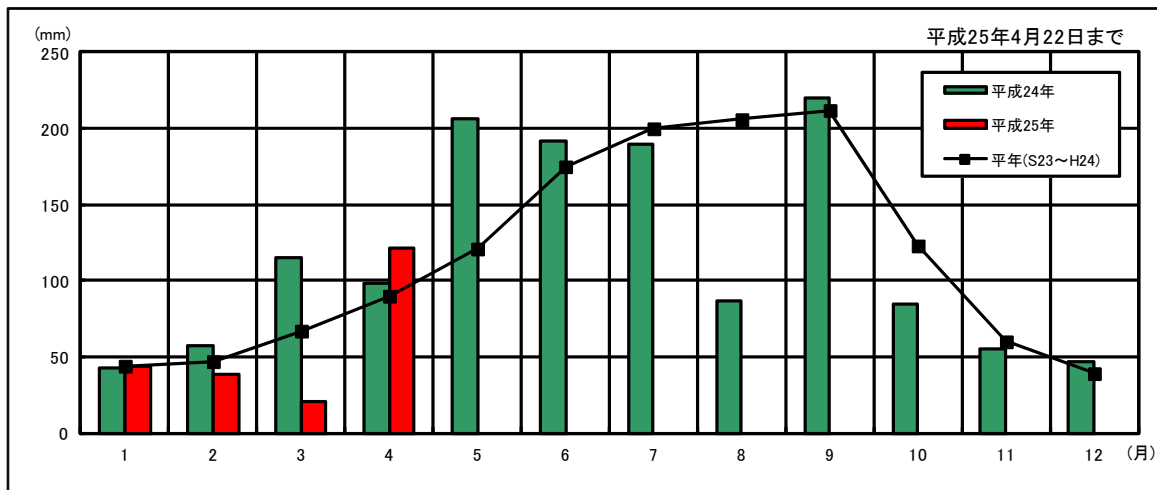


図-2 栗橋上流域平均降水量(月計)

表-1 栗橋上流域平均降水量(月計)

	単位(mm)												合計	摘要
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
昭和62年	22	33	62	14	89	91	204	186	252	73	39	26	1,091	利根川夏渇水
平成2年	31	66	71	119	58	74	118	193	326	143	183	31	1,413	"
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	"
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬夏渇水
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬渇水
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569	利根川夏渇水
平成24年	43	57	115	98	206	192	190	87	221	85	55	47	1,395	利根川夏渇水
平年(S23~H24)	44	47	67	90	121	175	200	206	212	123	60	39	1,383	
平成25年	43	38	20	122									223	
平年比(%)	98	81	30	135										

平成25年4月22日まで

※ 利根川取水制限実施月(一時緩和含む)

※ 栗橋上流域面積 8,588km²

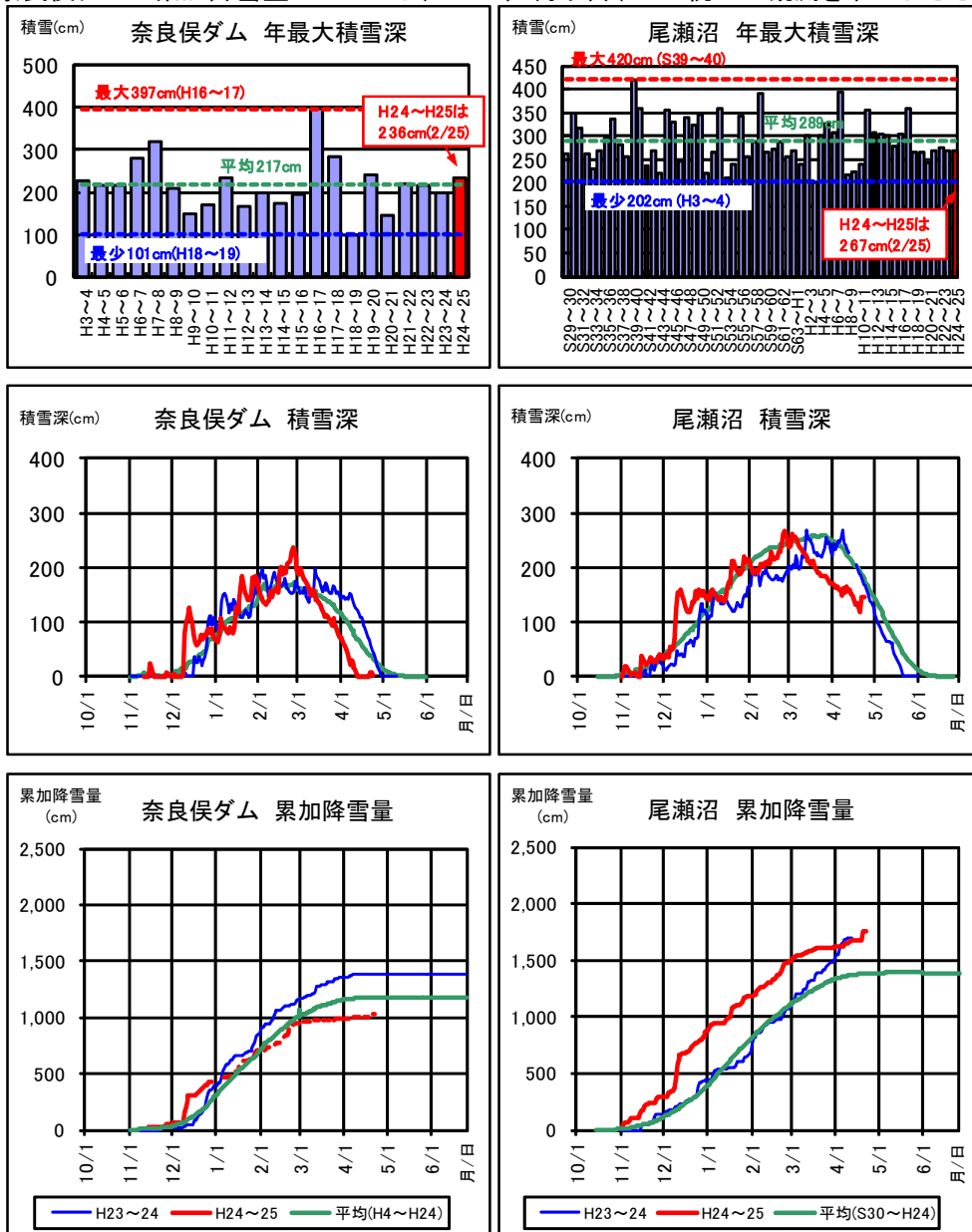
3. 利根川上流域の積雪状況

奈良俣ダム地点は12月中旬頃に平年を大きく上回る積雪深となりました。その後も3月上旬まで平年並または平年を上回る積雪深となっていました。3月に入ってから気温上昇等によって融雪が進み、平年を下回る状況となっています。また、尾瀬沼地点は、12月中旬に平年を上回る積雪深となりましたが、その後1月から2月下旬まで平年並の積雪深となり、3月以降は、気温上昇等によって融雪が進み、平年を下回る状況となっています。

今期の最大積雪深は奈良俣ダム地点で236cm(2月25日)、尾瀬沼地点で267cm(2月25日)となっています。4月23日9時現在の奈良俣ダム地点の積雪深は4cm(平年の15%)、尾瀬沼地点では4月22日9時現在、146cm(平年の87%)となっています。

観測所名	時 点	積雪深	今期最大積雪深	累加降雪量
奈良俣ダム (標高929m)	平成25年4月23日9時現在	4cm	236cm(2月25日)	1,026cm
	H4~H24の4月第5半旬末平均値	27cm		1,191cm
尾 瀬 沼 (標高1666m)	平成25年4月23日9時現在	146cm	267cm(2月25日)	1757cm
	S30~H24の4月第5半旬末平均値	168cm		1,380cm

※奈良俣ダムの累加降雪量については、H25 年1月以降、土日祝日の観測を中止したため参考値



※H23~24年の尾瀬沼の累加降雪量については、4月12日以降欠測

4. 利根川上流8ダムの状況写真(平成25年4月現在)

① 矢木沢ダム



② 奈良俣ダム



③ 藤原ダム



④ 相俣ダム



⑤ 菌原ダム



⑥ 草木ダム



⑦ 下久保ダム



⑧ 渡良瀬貯水池

